

## その他の情報提供システムのあり方

### ウ．最新の行政ニュース・・・への追加項目

出前講座のメニュー化を行なったので、5人以上が集まる場であれば、誰でも講座を要望することが可能になった。メニュー以外でも対応していくようにしたい。今後は、うまく使って欲しい。

### エ．広報紙、HP、広報車以外にもコミュニティFMなどの発信方法を工夫する。

#### ・不審者携帯メールについて

教育委員会の不審者携帯メールで、「熊が出た」というものがあり、有効だった。

このメールサービスは、発信側には規制があるが、加入は誰でもできる。

火事の現場の情報は、役場の携帯サイトから、情報提供が受けられる。

#### 共有された意見

他に、高齢者がいなくなった、事故があった、河川の水位など、発展型のメールのあり方が考えられるのではないか。

不審者情報だけでなく、情報の提供の種類が発展すれば、一般町民が加入することに大きな意味があるのではないか。

#### ・回覧板について

回覧板は町内会に入っていないと廻らない。

マンションでは強制的に入っている。

「よくわかる今年の中標津」を廻した。

#### 共有された意見

回覧板はとても有効である。

いろいろな情報が回覧されているので、必要なものである。

### オ．観光案内所の設置場所の再検討が必要である。町民以外の人が立ち寄りやすいバスターミナルなどにあるべきではないか。

#### ・現在の状況

観光案内所は、観光協会の所管である。

空港と商工会の2箇所に設置されている。

人件費がかかるので、縮小したという経緯がある。

商工会の中にある案内所の場所が、外向けに看板が無いので、わかりづらい。

#### 共有された意見

大きな通り沿いと建物の前に、外向けの看板を付けて欲しい。

議論は必要だが、この研究会では所管が違うので、結論は出ない。

## (2) 対等な関係を築くための具体的な解決策案

### パートナーシップの基盤強化

#### ア．町民の意識を高める

町民として地域社会に関心を持ち、社会貢献活動などに参加する。

##### 共有された意見

まずは、知ることから始まる。そのためにも「情報発信」や「情報共有」は大切である。町内会活動の中で、全町的なゴミ拾いくらいは、大人は参加する、子どもも参加させる意識が必要なのではないか。

#### イ．企業の意識を高める

企業も社会貢献活動に参加する意識が必要である。

##### ・ 現在の状況

建設さんが、看板清掃などを会社ぐるみで行なってくれている。そのような企業の社会貢献活動の情報は、現在は役場が把握している。「建設業協会」と「防災にかかわる協定」を結んでおり、工事の情報やどこかの道路などで防災上の何かがあった場合には、情報提供をすることになっている。

##### 共有された意見

社会貢献活動をしてくれているけど、町民はその事実を知ることが出来ない。そのような情報提供をする仕組みがない。そのような情報を知ることが、大切なことである。今後は、広報紙、コミュニティFM、新聞報道、まちづくりの拠点などで、企業の社会貢献活動の「事実を淡々と知らせること」が必要である。その場合、情報を受け取った町民が判断できるように、「片寄った情報提供」にならないような意識が必要である。

#### ウ．行政の意識を高める

町民とのコミュニケーションを積極的に行なう。

役場職員は率先して社会貢献活動に参加する。

##### 現在の状況

実際、役場職員は社会貢献活動を行なっているのではないか。

町内会活動も活発に行なっている。

行なっていない人もいる。

##### 共有された意見

町内会の役員に、一人くらいは役場職員が入ってくれれば、さまざまな情報がもらえるので、大変嬉しい。だからといって、地域担当職員というような仕組みは必要無い。今一層、意識を高めていただきたい。

#### エ．町内会の取り組みを強化する

町内会連合会の役割を再認識する。

##### 現在の状況

決算報告を知らない。不透明である。知りたい情報が、班員に来ない。

班長に格差がある。

連町って、役場の下部組織なの？ボランティアなの？どういう位置づけなのか、はっきりしない。

格差を埋める方法は？

意識を持っている人を役員にする。

ボランティアで構成されている役員は、「どんなことが必要なのか知らない人達」が行なっているので、必要な情報との格差があるのではないか。

共有された意見

少なくとも、決算報告など「やるべきことはやらないとならない」のではないか。

お金に関する情報は、共有することが必要。

町内会の役員はボランティアなので、お互いに「おまかせします」「ありがとう」の気持ちがないとダメなのではないか。

出来ない部分、わからない部分は、役員ではなくても、助け合う。声をかける。

「出来る自分」が補う。出来ない部分は「自分がやる」。

共有された意見

他の町内会の活動が分かると良い。

知る機会がないので、有効である。

町内会の防災組織や防災活動について

コミュニケーションを取る方法として、防災組織作りや検討は、有効なのではないか。

町内会単位の「防災計画」＝「自主防災組織」を作っている町内会もある。

地震だけではなく、断水なども想定できるので、横の連携が必要である。

働き盛りが帰宅している夜だけに災害が起こるわけではない。日中などの時間帯についても、防災意識が必要である。

町内会館があると、災害時に便利である。